

平成26年度 府立城陽高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) 実施段階

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>努力する心をはぐくみ、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい生徒の育成を目指す。あわせて、自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。また、あらゆる教育活動を通して、生命と基本的人権を尊重する態度や実践力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生としての身だしなみやマナーに最重点をおいて指導し特に女子生徒のスカート丈の改善に成果をあげた。今後とも規範意識及び社会性を醸成するために教職員の共通理解の下で徹底した指導を継続する必要がある。 ・ 授業規律の確立に重点を置き、良好な教育環境のもととなる「穏やかなクラスづくり」にも一定の成果をあげたが、学力の向上にはまだまだ課題が残る。基礎基本を徹底し、関心を喚起する「分かりやすい授業づくり」を一人ひとりの教員が意識した上で、教科としての取組が必要である。 ・ 「TAG城陽」の取組を地域の人材を生かして一層発展させ生徒に「なりたい自分」を考えさせ、生徒の進路意識を醸成する取組の強化が必要である。 ・ 1年生の全員部活動等加入を推進するとともに、Joyo Advance Clubの育成に努め、部活動の一層の活性化に向けて具体的な取組を実施する必要がある。 	<p>地域から信頼される地元の公立高校として、生徒一人ひとりが夢と目標を持って、生き生きと過ごすことができる輝きある学校づくりをすすめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 厳しさの中に愛情のある指導によって心身の健全な発達を促し心豊かでたくましく輝きある高校生を育成する。 2 基礎基本を徹底した「わかる授業」の実践を基盤に基礎固め学習会や基礎補充、進路補習・補講や土曜教室の充実により、個に応じた「確かな学力」を身に付けさせる。 3 生徒一人ひとりが、将来の「なりたい自分」を考え、学び、行動する習慣づくりに取り組み、より高い夢ある進路希望の実現を目指す。 4 部活動1年生全員加入や Joyo Advance Club の設置等により部活動の充実を図り、加入率70%を目標に、生徒一人ひとりが文武両道を目指す環境づくりを推進する。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	教育の質的向上を図るためのシステムを確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各分掌・教科が学校経営計画を作成し、学校関係者評価委員会、学校評価会議で達成度・課題を明確にする。 ・ 保護者、関係者及び生徒アンケートの実施・集計・分析結果を学校関係者評価委員会、学校評価会議で検討する。。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画に従って実施しており、個々の課題は明確化し、解消に向けての取組が進みつつあるが、生徒の実態の変化に応じた課題に向けて、有効な取組が必要である。
教育課程の編成と実施	26年度教育課程の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新学習指導要領の趣旨を徹底し、地域や本校生徒の状況を踏まえて、教育課程を実施し本校の特色化を推進する。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領の趣旨理解は進んでいる。今後新たな指導要領や新テストの実施を念頭においた教育活動の推進と本校の特色化に取り組んでいく。
教科指導	基礎学力を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生対象の「基礎固め学習会」を生徒の実態に応じた指導内容に工夫・改善し、個に応じた「確かな学力」を身につけさせる。また、夏休みと冬休みには全学年の成績不振者対象の基礎補充を行い、「確かな学力」を身につけさせる。 ・ 授業規律を徹底し、授業環境を整え授業を大切に指導を行う。 ・ 学習道具を持ち帰らせ、家庭学習の定着化を図る。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「基礎固め学習会」は予定通り実施できたが、次年度はより有効に機能できるよう改善する。夏休みの「基礎補充」前期・後期、冬休みの基礎補充を実施した。次年度は対象を拡げ、一層の基礎学力の充実を図る。 ・ 土曜教室で実施した考査前質問会は多くの生徒が真剣に参加し学習していた。 ・ 授業規律の確保はほぼ定着した。今後一層授業環境の改善に努めるとともに授業内容の改善に力を注ぐ。 ・ 公開授業・研究授業については、計画に沿ってすすめ、「アクティブラーニング」等の授業形態についても啓発できた。
	教科指導力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員が研究授業・公開授業に参観しやすい環境づくりを行い、教員が相互に研鑽に努めることにより、「わかる授業」の実践・生徒の学力保障を目指す。 ・ 年間指導計画や年間授業計画の改善を行い、効果的な指導を工夫する。 	B	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
生徒指導	学校生活を中心に据えた基本的な生活習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月間重点目標を定めHR掲示などを通じて啓発指導を行うとともに指導をあらゆる場面で徹底する。 ・ 年間をとおして服装・頭髪・装身具などの身だしなみ指導と特に今年度は、校門での遅刻指導を学年とも連携し重点的に行う。また、各家庭との連携を密に行う。 ・ 登下校時に校門や永徳参道で通学マナー指導を行う。 	B			<ul style="list-style-type: none"> ・ 城陽マインドプロジェクトを設置し、生徒向け教員向けの重点目標を設け啓蒙指導を行い、一定の成果を上げた。 ・ 身だしなみ指導特にスカート丈に加えてネクタイ・リボンについて成果が見られた。通学マナーについては通学路下校指導により一定の成果があった。
特別活動	入部率を高め、部活動、生徒会活動、ボランティア活動を活性化させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生に対し、部活動紹介や部活動体験を行う。全体の入部率を男子は80%、女子は60%に向上させる。 ・ Joyo Advance Clubに意識の向上と活動の活性化のための取組・指導を行う。 ・ 生徒会活動を中心として、各委員会やボランティア活動に生徒が積極的に携わるよう、多様な指導を工夫する。 	B			<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生に対しての指導は、スムーズに行えたが、全体として女子の入部率が依然低い。今後も活動の活性化に向けた取組を継続する。 ・ Joyo Advance Clubについては、中学校向け広報を進め、一定の理解を得た。本校生徒の意識の深まりへの取組を一層強化する必要がある。
人権教育	学年や分掌と連携して、人権教育を計画的に実施し、人権尊重の実践的態度を育む。関連教科で、基本的人権や同和問題をはじめとするさまざまな人権問題について学習を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権担当者会議を通して学年や分掌と連携し、新たな人権学習のあり方を検討し、実行する。 ・ 春と夏に教職員人権教育研修会を行うとともに、若手教職員の研修を充実させる。 ・ 分掌、教科などにおける人権教育の取組を調査し、全教職員にフィードバックする。 	B			<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな計画に従って人権学習を実施した、次年度は、本年度の取組を基礎にして、より系統的な人権学習を実施する。 ・ 若手教職員対象のフィールドワーク等の研修を実施した。 ・ 分掌、教科などにおける人権学習の内容の調査は予定通り行った。
進路指導	3年間の進路指導を通じ、望ましい勤労観・職業観を確立し、一人ひとりにより高い進路希望を実現させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が将来展望をもって進路実現できるよう、「TAG城陽」を柱とした系統的なキャリア教育実施計画を確立し実行する。 ・ 3年間を見通した進路指導計画を立案し、組織的・系統的な進路指導体制の確立を図る。 ・ 生徒の学力向上のための学習機会を拡充するため、土曜教室や進路補講を学年に応じて効率的に推進する。 ・ 学校斡旋による就職内定率100%を維持する。 	B			<ul style="list-style-type: none"> ・ TAG城陽の取組は「どれ道学習」を1年で本格実施し、大きな手応えがあった。 ・ AO入試決定の早期化への対応を検討する必要がある。 ・ 高校生の就職状況が厳しい状況であるが、一定の成果があがっている。 ・ 次年度は土曜教室の位置づけ・目的等を明確化して実施する。
安全管理	生徒が、安心して学べるよう、環境美化・整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健委員会活動を推進し、委員会ニュースなどを活用して、校内美化の啓発や、ボランティア清掃等の取組を行う。 ・ 美化・安全点検をこまめに行い、清掃活動を活性化させて、校内と学校周辺の美化・安全管理に努める。 	B			<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア清掃に積極的に取り組んでいる。今後も、啓蒙を続けていく。 ・ 保健室来室者は減少したが、来室生徒について状況を把握し、学年とも連携を取り個々の生徒への対応を行った。 ・ 穏やかな学習環境を形成するSST研修を、学年行事の中に取り入れ、系統的に取組を進め、成果が現れつつある。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
財務	環境保全に配慮した、電気・ガス・水道の使用量の節減及びゴミの削減を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 電気・ガス・水道の使用についての節減を生徒及び職員に伝達し、前年度の使用量を基準に1%以上削減し、その成果表を作成する。 持ち込みゴミの持ち帰り等ゴミ削減に向けた方法を、生徒及び教職員に伝達し、前年度のゴミ(可燃)搬出量を基準に1%以上削減し、その成果表を作成する。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> クーラーを稼働させての授業等が続き、電気の使用が増加したが、節電に向けてデマンドを活用し、職員室・事務室等の電灯の消灯、クーラーの運転停止等に努めた。
広報活動	地域からの信頼や期待に応えられる学校づくりに努力し、本校の取り組みを積極的に発信する。	<ul style="list-style-type: none"> 山城合同学校説明会と5回の学校説明会・部活動体験・個別相談会を部活動顧問や分掌と連携して実施し、本校の特色を明確に発信する。 城陽高校NEWSを4回発行し、本校の特色や取組状況等を外部に向けて積極的に情報発信する。 ホームページの内容に方向性を持たせるとともに更新を充実させ新しい情報を発信する。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度より学校説明会・部活動体験者が増加している。 城陽NEWSは予定通り4回発行し、本校の情報を外部に発信した。 ホームページはできるだけこまめに情報を発信している。
学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ(特に女子のスカート丈)については改善した、今後も学校全体で通学マナーの改善・遅刻防止の取組等を進める必要がある。 城陽高校の特色・特長の地域への発信を一層強化すべきである。 進路保障につながる学力や意識の育成に一層力を入れる。 					
次年度に 向けた改善の 方向性	<p>以下の指導に重点を置き、中期目標の達成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育を系統的に実施する。特に「TAG城陽」の取組を地域の人材を生かして一層発展させ、生徒に「なりたい自分」を考えさせる。 遅刻防止の取組等、高校生としての生活に最重点をおく指導を徹底し、規範意識及び社会性を醸成する。 1年生の全員部活動等加入を定着させるとともに、Joyo Advance Clubの校内での位置づけ・活動を明確化し、部活動の一層の活性化に向けて具体的な取組を実施する。 特別支援教育の視点を持って、「分かりやすい授業づくり」と良好な教育環境のもととなる「穏やかなクラスづくり」を実現する。 授業規律は改善されたが、学力の伸長を一層はかるための教職員の研修及び学校全体の取組が不可欠である。 土曜日を有効に活用した取組を実施し、進路保障につながる学力を育成する必要がある。 広報活動を一層強化し、地元の方々や中学校・教育関係機関に信頼される「地域に信頼され共に歩む公立高校」を目指す。 					